令和３年度　自 己 評 価 計 画 書

石川県立金沢錦丘高等学校

【重点目標1】 中高一貫教育の特長を生かし，将来を見据えた進路目標に向かって自発的に取り組むことのできる生徒を育成する。

	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
①	中学校との情報交換や指導記録も適切に踏まえ，学級担任や学年主任等による積極的な面談を行う。	各学年	肯定的評価の割合は昨年度72%であった。ただ，関連項目の「学校生活に関する悩みに対応してくれる」に対して，「わからない」と回答している生徒の割合が24%であった。普段の観察・声かけをこまめに行うとともに，個人面談などを通してきめ細かい指導を行う。	【満足度指標】 面談を通して，生活や学習に関して，きめ細かく指導を行うことで，学習面での積極性や主体的に進路を選択する姿勢が向上する。	「ホーム担任や教科担任との面談によって，自分の学習姿勢や進路選択に良い変化が生まれた」と思う生徒の割合が Ａ　80%以上である Ｂ　70%以上である Ｃ　60%以上である Ｄ　60%未満である	Ｃ，Ｄの場合，指導のあり方を再検討する。	生徒アンケート（７月・１２月）により評価する。
②	学校ＨＰや学年通信，各種便り等を通して保護者に学校の様子を伝えるとともに，ＰＴＡ活動や学校行事への参加拡大を図り，家庭との連携を強める。	総務課	コロナ禍の中，「学校のHPや学年通信，行事案内など，学校からの情報を見ている」と答えた保護者の割合は高くなった。今年度は，さらに分かりやすく丁寧な情報提供を目指す。PTAの行事は，昨年度ほとんど開催できなかったので，活動が通常に戻った時には，多くの保護者が参加してくれるようにメール配信等を活用し働きかける。 （R２後期　保護者アンケート） 「学校からの情報を見ている」75% 「PTA主催の行事に参加した」延べ34人	【成果指標】 学年通信のほかに，学校ＨＰや各種だより等も有効に活用することで，保護者や地域の方々が目にする機会が増える。	「学校のＨＰや学年通信，行事案内など，学校からの情報を見ている」保護者の割合が Ａ　80%以上である Ｂ　75%以上である Ｃ　70%以上である Ｄ　70%未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	保護者アンケート（７月・１２月）により評価する。
				【成果指標】 行事に参加する保護者の数が増加し，延べで1,000人以上を目指す。	ＰＴＡ主催の行事に参加する保護者の数が，延べで Ａ　1,000人以上である Ｂ　800人以上である Ｃ　600人以上である Ｄ　600人未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	各行事の参加者数を集計し，評価する。
③	中高一貫教育校として６年間を見通した学習指導や進路指導を行う。	教務課	肯定的評価の割合が，一昨年度と比較して15ポイント増加し，69%であった。年間を貫いた学校設定科目を軸とした英語指導，高校数学の先取り学習など，中高における教科内の共通理解が図られた成果と考えられる。中高一貫教育校のメリットを生かして，さらに創意工夫を進めていく。	【努力指標】 ６年間を見越した到達目標を明確にし，中高の教員が連携して，生徒の進路目標の実現を図る。	「中高一貫教育校として，６年間を通じた指導方針や指導方法の共通理解と実践に，教科で取り組んでいる」と思う教員の割合が Ａ　70%以上である Ｂ　60%以上である Ｃ　50%以上である Ｄ　50%未満である	Ｃ，Ｄの場合，連携のあり方を再検討する。	職員アンケート（７月・１２月）により評価する。
			家庭学習時間の目標達成率（R２後期） ［平日］1年:72%，2年:63%，3年:77% ［休日］1年:54%，2年:76%，3年:36% 今年度も，生徒に課題を与えてただ勉強せよというのではなく，生徒に課題を選択させたり，その課題の意義を理解させる工夫をする等，生徒が自律的に学習を進められるように支援をする。	【成果指標】 ［平日の目標］ 1年:２H，2年:２．５H，3年:３H ［休日の目標］ 1・2年：４H，3年:総体等前５H，総体等後８H	目標時間を達成している生徒の割合が Ａ　80%以上である Ｂ　70%以上である Ｃ　60%以上である Ｄ　60%未満である	Ｃ，Ｄの場合，結果を分析し，改善策を検討する。	生徒アンケート（７月・１２月）により評価する。

④	いじめやネットトラブル等に関する校内研修や講習会を実施し，生徒のトラブルについて予防的対応を行うとともに，問題行動の早期発見を図る。	生徒指導課	昨年度，教職員対象の校内研修や，１年生対象のスマホ安全教室，SOSの出し方教室などの学年集会を実施したことが効果的であった。今後も，近年深刻さを増すいじめ問題やネットトラブルについて，研修会等を通じて教員が理解を深め，トラブルの早期発見や対応ができる体制を確実に作っていく。 （R２職員アンケート） 「取り組んでいる」96％	【成果指標】 研修会等により，いじめ問題やネットトラブルの安全対策について理解を深めることで，生徒への指導に結びつけている。	いじめやネットトラブルの予防指導の必要性を理解し，「実践している」「ほぼ実践している」教員の割合が Ａ　90%以上である Ｂ　80%以上である Ｃ　70%以上である Ｄ　70%未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組の方法を再検討する。	職員アンケート（７月・１２月）により評価する。
⑤	生徒一人一人が自発的に挨拶できるような雰囲気を醸成し，気持ちよく授業を受けられる環境を整える。	生徒会課	「挨拶を積極的に行っている」「校外からの来校者にも積極的に挨拶している」と答える生徒の割合が前年度と比較し，若干減っている。コロナ禍でマスクを着用し，相手の表情もなかなかうかがえないことも要因にあると思われるが，挨拶の大切さを実感できるような取り組みを実施したい。 R2後期生徒アンケート(R1同期) 「挨拶を積極的にしている」71％（74％） 「校外からの来校者にも積極的に挨拶している」29％（33％）	【成果指標】 教職員の積極的な声掛けや生徒会や部活動を中心とした挨拶運動により，積極的に挨拶ができる生徒の数が増加する。	「学校生活において，挨拶を積極的に行っている」生徒の割合が Ａ　80%以上である Ｂ　70%以上である Ｃ　60%以上である Ｄ　60%未満である 「校外からの来校者にも積極的に挨拶している」生徒の割合が Ａ　70%以上である Ｂ　50%以上である Ｃ　30%以上である Ｄ　30%未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組の方法を再検討する。	生徒アンケート（７月・１２月）により評価する。
⑥	担任，学年団，生徒指導室，保健室，相談室，部顧問が十分に情報を共有し，課題や悩みを抱えた生徒を早期に発見し，自発的解決に向けて協力する。	保健・相談課	本校では，生徒個々の状況を把握し，職員間で共有する姿勢が貫かれており，全職員が様々な機会を捉えて，問題を抱えた生徒の早期発見と支援に努めている。今後とも，保護者や外部機関との連携も含め，組織的な協力体制を向上させる。 （R２職員アンケート） 「対応ができている」97％	【成果指標】 早期に連携して，生徒の課題や悩みに対応しようとする教員が増加する。	「関係教職員の情報共有により，問題を抱えた生徒を早期に把握し対応している」と思う職員の割合が Ａ　90%以上である Ｂ　80%以上である Ｃ　70%以上である Ｄ　70%未満である	Ｃ，Ｄの場合，連携のあり方を再検討する。	職員アンケート（７月・１２月）により評価する。
⑦	高校で求められる知識・教養・感性を身に付け，文章の理解力・表現力を育成するために読書を奨励する。特に，各教科と連携し，読書指導を授業やシラバスの他，あらゆる機会をとらえて行うことによって推進する。	図書課 各学年 各教科	教員が生徒に対する読書の推進を継続的に行っている。授業で紹介した本の冊数も増えている。 読書を通して身につく「教養」や「思考力」に期待し，今後も適切な働きかけを通して読書指導を推進していく。 （R2）「生徒の読書量を増やすための指導をしている」56％	【努力指標】 生徒が読書の楽しさを知り，高い教養と感性を身につけ，幅広い考え方ができるように図書の紹介を行い，生徒の読書に対する興味・関心を高める。	「授業で図書を紹介するなど，生徒の読書量を増やすための指導をしている」と思う教員の割合が Ａ　60%以上である Ｂ　50%以上である Ｃ　40%以上である Ｄ　40%未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	職員アンケート（７月・１２月）により評価する。

【重点目標2】 各教科・科目における指導を通して，深い思考力やコミュニケーション力などの向上を図るとともに，これからの社会の変化に柔軟に対応できる力の伸長に努める。							
	主担当	現　　状	評　価　の　観　点	達　成　度　判　断　基　準	判定基準	備　　考
①ＩＣＴの効果的な活用やアクティブラーニングの手法を取り入れながら授業研究に取り組み，生徒に基礎的・基本的な事項を確実に習得させるとともに，論理的思考力や表現力の育成を図る。 また，各教科の特質を踏まえた言語活動を通して，「コミュニケーション力」の育成を図る。	各教科	昨年度はコロナ感染予防のため，計画されていた中高間の互見授業等が中止された。そのような中，中学３年生担当の教員が高校の授業を参観したことは大きな意義があった。今後も感染対策を十分に行い，相互に刺激を与えあって授業改善を行う。 職員アンケート（R2後期）「4回以上あった」23％	【努力指標】 錦丘中とも連携した研究授業や互見授業を通して，授業改善に繋げるために，授業を参観する機会を多く設ける。	「他の教員の授業を参観したり，自分の授業を参観してもらった上で意見を伺ったりして参考になったと思える回数が，錦丘中との交流を含め，年間４回以上あった」と思う教員の割合が Ａ　70％以上である Ｂ　60％以上である Ｃ　50％以上である Ｄ　50％未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	職員アンケート（７月・１２月）により評価する。
		肯定的評価は近年ほぼ同値である。今後は同一科目の中でICT機器を利用した教材を共有するなどの工夫をして，全体の水準を高く保ちながら，さらに効果的な教材をつくっていく。また，生徒用Chrome Bookも導入されるので，その利活用研究も急務となっており，校内での組織的対応を行う。 生徒による授業評価（R2後期）「高まっている」74％	【努力指標・満足度指標】 ＩＣＴの「効果的な」活用方法について学校全体で検討し，実践に繋げる。	「ＩＣＴを活用した授業により，学習効果が高まっている」と思う生徒の割合が Ａ　80％以上である Ｂ　70％以上である Ｃ　60％以上である Ｄ　60％未満である	Ｃ，Ｄの場合，取り組みを再検討する。	授業評価（７月・１２月）により評価する。
		肯定的評価はこの２年間，同値の80％であった。教科の特性により差はあるが，ほとんどの教科で75％以上となり，特に国語においては92％が肯定的に回答している。生徒の思考を揺さぶる発問を研究したり，授業形態の工夫をしたりなどして，今後も思考力の育成に努める。	【満足度指標】 思考を揺さぶる学習活動やどんな力を身につけたのかの振り返り（リフレクション）を取り入れ，論理的思考力や判断力，表現力を育てるとともに，自ら課題に向き合うことで，考え抜く探究力を育てる場面が増える。	「授業の中に思考を深める場面がある」と思う生徒の割合が Ａ　90％以上である Ｂ　80％以上である Ｃ　70％以上である Ｄ　70％未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	業評価（７月・１２月）により評価する。
		この項目についても肯定的評価は２年間，ほぼ同値である。教科別に見ると，国語93%，地歴公民74%，数学68%，理科71%，保健体育56%，英語90%と，教科間で差があり，この傾向も２年間変わっていない。学んだことをベースとして，自分の意見を発表させたり，生徒同士で教え合いさせたりなどして，生徒の表現力の育成に努めていく。	【満足度指標】 自らの考えを伝えるだけでなく，集団の考えをまとめられるような指導を取り入れることで，コミュニケーション力を伸ばす場面が増える。	「この授業では，話し合い，発表，質問，実験・実習など，自分の言葉で考えたことや思いを伝える場面がある」と思う生徒の割合が Ａ　90%以上である Ｂ　80%以上である Ｃ　70%以上である Ｄ　70%未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	授業評価（７月・１２月）により評価する。
②教科や総合的な探究の時間の内容を関連させ，表現トレーニング，プレゼンテーション，多文化共生理解などに取り組むことで，論理的・批判的に事象をとらえ，自らの考えを述べる力を育成する。	教務課	「関心を持つようになった」は全体で61%，１年生53%，２年生66%，３年生65%であった。１年生よりも２・３年生の方が，授業を通してさまざまな世界的・社会的事象に対して，より関心をもつようになっている。 課題探究を一層充実させるとともに，生徒が社会的事象を自分事として捉え，主体的に探究していく授業スタイルを盛り込んでいく。	【成果指標】 生徒がさまざまな世界的・社会的事象により関心を持ち，それについて意見を持つような生徒が増える。	「さまざまな世界的・社会的事象に対して，より関心を持つようになった」と思う生徒の割合が Ａ　70%以上である Ｂ　60%以上である Ｃ　50%以上である Ｄ　50%未満である	Ｃ，Ｄの場合，指導のあり方を再検討する。	生徒アンケート（７月・１２月）により評価する。

③	生徒自らが設定した進路目標の実現に向けて，学習意欲の向上を図るとともに，教員のサポート体制を強化する。	進路指導課	およそ，４割の生徒が３年の４月の希望と違う進路先となっている。今後は，どの大学を受験するのかという目先の目標ではなく，自分は何を学びたいか，将来どんな職業に就きたいかという目標を早い時期から考えさせるために，個人面談や進路ガイダンスなどのキャリア指導をより一層充実させる。	【成果指標（生徒）】 生徒が志望する「なりたい自分」と卒業後の進路が，学問領域等において一致している。	３年次４月の進路志望調査と卒業時の進路を比較し，その学問領域等が一致している割合が Ａ　65%以上である Ｂ　55%以上である Ｃ　45%以上である Ｄ　45%未満である	Ｃ，Ｄの場合，サポート体制を見直し，改善策を検討する。	進路志望調査と進路結果により評価する。
			昨年度，７月外部模試と比較して１１月外部模試が伸びた生徒は，１年生が171名，２年生は137名と増加した。CU（土曜補習）を完全廃止した中で，効果的な週末課題への取り組みや単元テストの導入，自主的な長期学習計画の作成などの取り組みの成果であると捉えている。今後も生徒の実情をよく理解し，適切な学習指導を行っていく。	【成果指標（生徒）】 学習習慣を身につけ，成績を伸ばしている。 ＊進研模試（７月と１月，もしくは11月）の全国偏差値の比較	今年度で学力を伸ばした１年生の生徒数が Ａ　180名以上である Ｂ　160名以上である Ｃ　140名以上である Ｄ　140名未満である 今年度で学力を伸ばした2年生の生徒数が Ａ　120名以上である Ｂ　100名以上である Ｃ　80名以上である Ｄ　80名未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	進研模試（7月と１月，もしくは11月）により評価する。

【重点目標3】 多忙化改善に向けた教職員の意識改革を図るとともに，業務の平準化や部活動指導の効率化など，校内における勤務状況の改善を推し進める。

	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
①	多忙化の大きな要因となっている部活動において，限られた時間の中で活動を行う。	生徒会課	昨年度の学習・健康・生活アンケートで，「部活動と学習の両立ができている」と答えた生徒の割合は， １年で45%，２年で56%，全体は51%であった。 部活動の活動時間の効率化などを図り，学習との両立ができるようにする。	【成果指標・満足度指標】 学習との両立ができて，心身のバランスがとれたタフな生徒が増える。	１，２年生で「勉学と部活動の両立ができている」と思う生徒の割合が Ａ　70%以上である Ｂ　60%以上である Ｃ　50%以上である Ｄ　50%未満である	Ｃ，Ｄの場合，取組を再検討する。	生徒アンケート（７月・１２月）により評価する。
②	時間外勤務や会議時間の短縮，効率化に学校が一丸となって取り組み，多忙化改善に向けた教職員の意識改革を行う。	総務課 管理職	各自で定時退校日を定めたり，日数を１ヶ月あたり２日に増やすなどの対策を行っている。昨年度のアンケートでは，意識が高まったと答えた割合が前年度より8%増えており，一定の成果を出すことができた。しかし，意識の高まりはあっても，時間外勤務が多い教員もいる。仕事の効率化などの工夫を行い，さらに職員のタイムマネジメントの意識と行動が伴うように努める。 (R２職員アンケート) 「業務効率の意識を高めた」88%	【成果指標】 業務の効率化やタイムマネジメントに関する意識を強く有する教員が増える。	「業務の効率化やタイムマネジメントに関する意識を高めた」と考える教員の割合が Ａ　95%以上である Ｂ　90%以上である Ｃ　85%以上である Ｄ　85%未満である	Ｃ，Ｄの場合は取組の方法を再検討する。	職員アンケート（７月・１２月）により評価する。